

## 視覚障害学生と一緒に学ぶ学生への配付資料(例)

このたび、学習の際に点字を使用する〇〇さんが皆さんと共に入学しました。〇〇さんは重度の弱視で、普通文字の読み書きに困難があります。また、移動の際には白杖を使用しており、特に暗い場所ではほとんど見えない状況です。

そこで、〇〇さんと共に学生生活を送る上で知っておくとよいことをまとめましたので、参考にしてください。

- 1.色のことも、景色のことも、テレビのことも話題にしてかまいません。なんでも、普通に話してください。
- 2.聞くことや触ることによって、多くの情報を得ることができます。一緒に歩いているときなどには、状況を言葉で説明したり、いろいろなものに触らせてください。
- 3.誘導するときは、下図の基本姿勢を参考にしてください。安全な場所では普通の速さで歩いてかまいませんが、階段の始まりや段差のあるところ、溝をまたぐときなどは速度を落とし、声をかけてください。
- 4.誘導するときは、まず声をかけてください。いきなり手をとられたり、後ろから押されたりすると驚きます。
- 5.一緒に歩いて来て別れるときには、その場所がどこなのか説明し、場所を理解していることを確認してから別れてください。
- 6.慣れている場所は一人で歩けますが、普段と様子が違う場所では不安を感じ、また危険も伴います。そこで、廊下に荷物が置かれていたり、工事中で通路が変更されているときなど、何か普段と違う状況に気づいたときには知らせてください。
- 7.物を手渡すときは声をかけて渡してください。また、挨拶をするときや話しかけるときには、まず相手の名前を呼び、自分の名前も伝えてください。
- 8.本学には、障害学生のためのピア・チューター制度があります。関心のある学生にピア・チューターになってもらい、大学がその学生に謝金を支払う制度です。ピア・チューターとしての役割は、資料のテキストデータ化、資料の読み上げ、書類の代筆、〇〇さんがパソコンで書いた普通文字文書の校正・レイアウト調整などです。点字を知らなくてもできます。説明会や講習会の詳細は別途連絡しますので、関心のある人は積極的に参加してください。

<参考> 障害学生支援室: <http://www.xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx>



### 移動介助の基本姿勢

視覚障害学生が、誘導者の肘関節の少し上を軽く持ちます。こうすると誘導者が半歩前を歩くことになり、安全です。誘導者が、視覚障害学生を後ろから押したり、前から腕や白杖を引っ張ったりしてはいけません。